

多様な
言語と文化の背
景をもつ子どもたちを、
どのように包摂して教育をして
いけばいいかの研究をしています。

日本語教育、教科教育、シティズンシップなど
の分野を渡りながら考えています。

今回のシンポジウムでは、「そもそもこうした子どもたちをど
のように呼べばいいのか」を基点にしながら、子どもたちの包
摂と教育の関係を、バイリンガル教育の観点、教育方法といっ
た具体的な教育の場に根を下ろして考えていきます。その中で、
日本の学校教育がもたらしている学力と福祉の教育の議論の分
断と包摂に目を向けられていけばと思います。

『外国人児童生徒のための社会科教育——文化と文
化の間を能動的に生きる子どもを授業で育てるため
に』（明石書店、2013年）、「年少者日本語教育に
おける研究課題の変遷——学校と教育の再構築へ向
けて」『日本語教育』第179号（共著、2021年）、
「民主化のエージェントとしての日本語教育——国
家公認化の中で『国家と日本語』の結びつきを解き
ほぐせるか」『教育学年報』第12巻（共著、2021
年）など。



南浦 涼介

東京学芸大学